

目次

凡例

資料解説

太平洋戦争報告書（米国戦略爆撃調査団一九四六―四七）抄

一 総合報告書

- 一 報告第一 太平洋戦争総合報告書……………三
- 緒言(二三) まえがき(四) 第一章日本軍の進撃(一六) 第二章連合軍の反撃(二〇) 第三章日本
 軍事戦力の壊滅(二五) 第四章日本戦争経済の崩壊(三二) 第五章日本の降伏(四六) むすび
 (五六)

二 日本の諸工業

一 報告第四三 軍需工業……………六

第一章報告の範圍(六九) 第二章要約(六九) 第三章日本の軍需工業力と要求(七二) 第四章一九四一—四五年の生産(七五) 第五章ビーク生産時まで日本の戦時生産を制限した諸要因(七八) 第六章一九四四年から終戦時まで日本の戦時生産の低下に影響した諸要因(七九)

二 報告第一五 航空機工業……………100

第一章要約(一〇〇) 第二章日本の航空機工業(一〇八) 第三章日本の航空機—生産(一七〇) 第四章航空機生産の材料(一九〇) 第五章部品と構成部分の製造(二〇二) 第六章航空機工業に対する航空攻撃(二二二) 付録第5米国防略爆撃調査団の質問に対する岡野保次郎の回答(二五六) 付録第6軍需会社法と軍需省官制(二五八) 付録第7構成部分と付属品の下請業リスト(二六三) 付録第8金属の主要供給者リスト(二六六) 付録10統計(二六八)

三 報告第四六 造船工業……………104

第一章要約(三〇三) 第二章機構(三〇六) 第三章諸計画(三〇七) 第四章優先順位(三〇八) 第五章艦隊の整備(三一〇) 第六章組織(三一〇) 第七章生産(三一七) 第八章隘路と対応策(三二一) 第九章爆撃による損害(三二六) 付録第1日本海軍艦艇の一九三一年からの隻数とトン数(三二九) 付録第2一九四一—四五會計年度別日本海軍艦艇建造の月別指数(三三二) 付録第3一九四五価格による一九四一—四五會計年度別艦種別建造の価値(三三七)

四 報告第四八 造船工業……………104

第一章要約と結論(三四二) 第二章戦前の造船(三四六) 第三章戦時中の造船工業(三四七) 第四章造船工業に対する要求(三六一) 第五章計画と生産(三六八) 第六章造船工業の隘路(三七九) 第七章航空攻撃の影響(三九〇) 付録第1日本の五七造船所の戦時中の施設と生産高(三九八) 付

録第 2 一〇〇総トン以上の鋼船の会計年度別船種別完成合計トン数 (四〇二) 付録第 3 海軍艦政本部の計画による五〇〇総トン以上の商船建造計画 (一九四二—四五年) (四〇三) 付録第 4 標準船の詳細 (四〇五) 付録第 5 造船の毎月円価値投入と指数 (一九四一—四五年) (四〇六) 付録第 6 民間造船所に対する質問事項 (四一六)

三 米軍の対日攻撃

一 報告第五四 対日輸送攻撃戦……………四三

緒言 (四二二) 第一章要約と結論 (四二二) 第二章日本の平時経済における運輸 (四三六) 第三章戦前の運輸諸機関 (四四二) 第四章海上輸送に対する攻撃 (四五〇) 第五章運輸攻撃の効果 (四六三) 第六章一九四五年における輸送 (五〇四) 第七章輸送攻撃の経済的效果 (五二四) 付録 A 潜水艦による日本油送船の撃沈 (五四七)

二 報告第七三 対日船舶撃滅戦……………五六

一 日本の海洋依存性 (五五八) 二開戦と船舶護衛 (五五八) 三日本の船舶運営と護衛組織 (五五九) 四日本船舶に対する本格的猛攻 (五六三) 五日本ついに五〇〇万トン喪失 (一九四四年八月) (五六四) 六日本船舶攻撃最高潮に達す (一九四五年) (五六六) 七終戦時の日本船舶状況 (五六八)

三 報告第六六 B 29 部隊の対日戦略爆撃作戦……………五六九

まえがき (五六九) 緒言 (五六九) 第一章 戦局の状況 (五七〇) 2 超重爆部隊の任務 (五七一) 3 編制および戦闘装備 (五七二) 4 戦略爆撃の成果 (五七五) 5 機材、搭乗員の損失 (五七六) 6 爆撃作戦 (五七七) 7 終戦直後の作戦 (五九一) 第二章要約、B 29 超重爆部隊の対日戦略爆撃作

戦(五九四) 付録A都市地域目標の破壊(五九七) 付録B航空機工場の破壊(六〇一) 付録Cその他の工業目標の破壊(石油関係)(六〇四)

四 終 戦

一 報告第二 日本 の 終 戦 努 力 …………… 六〇七

緒言(六〇七) 第一章日本の政治機構の若干の特質(六〇八) 第二章東条将軍退陣の背景(六〇九)
第三章無為に終った小磯政權(六一一) 第四章鈴木終戦内閣の登場(六一五) 第五章本土戦略爆撃
と政治的目標(六二二) 付録A—1開戦の場合の日本国力推移判断—昭和一六年一二月現在(六三〇)
A—2国力ノ現状—昭和二十年六月八日(六三三) A—3開戦時における日米両国の軍事力比較(六
三七) A—4終戦時における日米両国の軍事力比較(六四一) A—5近衛公上奏文控(六四四)
付録B日本側戦時指導者の略歴(六四六)

二 報告第七二 重臣、陸海軍人尋問録…………… 六五七

1 永野修身(六五七) 2 米内光政(六六六) 3 豊田副武(六七九) 4 野村吉三郎(七〇八) 5
高木惣吉(七三三) 6 木戸幸一(七三九) 7 近衛文麿(七四四) 8 鈴木貫太郎(七五一)

付 録

一 作戰計画 (一) 日本 七五九

一 「ミッドウエー」島作戰ニ関スル陸海軍中央協定 七五九

二 情勢ニ応ズル東部「ニューギニヤ」「ソロモン」群島ニ関スル陸海軍中央協定 七六一

三 南太平洋方面作戰陸海軍中央協定 七六二

四 南太平洋方面作戰陸海軍中央協定 七六六

五 「ケ」号作戰ニ関スル陸海軍中央協定 七六九

六 南東方面作戰ニ関スル兩部申合覚 七七〇

七 南東方面陸海軍中央協定 七七一

八 中南部太平洋方面作戰陸海軍中央協定 七五五

九 中部太平洋方面作戰ニ関スル陸海軍中央協定 七六一

一〇 陸海軍爾後ノ作戰指導大綱 七六二

一一 帝国陸海軍作戰計画大綱 七六四

二 作戰計画 (二) 連合国 七六一

一 南西太平洋方面最高指揮官への指令 七六一

二 太平洋方面最高指揮官への指令 七六一

三	南西太平洋方面への作戦指令（要旨）	七九二
四	一九四三年における太平洋戦域の戦争指導方針（要旨）	七九三
五	一九四三年の南および南西太平洋作戦（要旨）	七九三
六	日本撃破のための戦略計画（要旨）	七九四
七	一九四三―四四年の太平洋進攻作戦（要旨）	七九四
八	日本撃破のための一九四四年の作戦	七九五
九	太平洋進攻目標の指令	七九六
一〇	日本を屈伏させる方策	七九七
一一	日本打倒計画（要旨）	七九八
一二	日本打倒戦略方針	七九八
一三	九州進攻作戦（オリンピック作戦）	七九九
一四	対日最終作戦計画	八〇〇
一五	原爆投下命令	八〇〇
一六	第二次大戦連合国首脳会談一覧	八〇二
三	太平洋戦争諸統計	八〇三
一	日米軍事力の推移（人員数、艦艇数、航空機数の推移）	八〇三
二	開戦時、日本、連合国海軍兵力一覧（太平洋方面）	八〇四

三	戰時中日本、米国の建艦状況	八〇五
四	主要海空戦日米呼称対照表	八〇六
五	主要海空戦要目一覽(一)	八〇七
六	主要海空戦要目一覽(二)	八〇八
七	日米航空兵力の推移一覽(太平洋方面、第一線機のみ)	八一四
八	後期主要陸戦要目一覽	八一五
九	特攻(神風、桜花、震洋、回天)による攻撃一覽表	八一八
一〇	日本艦艇沈没損傷残存状況(一)	八一九
	日本艦艇沈没損傷残存状況(二)	八二〇
一一	日米両軍死傷者数	八二一
一二	地域別日本陸軍戦死者数一覽	八二二
一三	戰時中、日本陸海軍機第一線機損耗数(月別)	八二三
一四	終戦時における日本軍勢力	八二三
一五	終戦時、米軍の太平洋方面展開兵力一覽	八二四
一六	戰時中、日米商船建造量比較(年別)	八二四
一七	日本商船撃沈トン数の三大原因別毎月比較図	八二五
一八	対日海上交通破壊戦と日本船舶の推移	八二六